

4月	単元名	1 なかまづくり とかず (11時間(12時間))	
	目標	身の回りのものの数量に関心をもち、数や量の概念の基礎となる経験をする。 10までの数について数え方、読み方、書き方、構成などを知り、数の概念について理解する。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○いろいろな観点や条件に応じて、集合をつくることができる。 ○1つの集合に対して、その集合の観点や条件を認識することができる。	1	・絵を見て自由に話し合いながら、ものの集合に着目する。 ・観点や条件に応じてものの集合をつくる。 ・集合の要素を示し、それがどんな観点や条件の集合か考える。 ・位置や方向について話し合う。 ・身の回りの具体物について集合づくりを行う。
	○集合の要素を1対1対応させる方法を理解する。 ○2つの集合の要素の個数の多少を比べることができる。 ○数が同じ、違う(多い、少ない)などの意味を理解する。	1	・絵を見て、いろいろなものの集合をとらえる。 ・2つの集合の要素を線で結んで比較する。 ・直接対応できない2つの集合の要素の個数の比較の方法を考える。 ・媒介物を用いて比較する。 ・数量の相等、多少の意味を考える。
	○集合の要素の個数に着目し、同じ個数の集合を認識することができる。 ○数量の大きさを表すのに数を用いることを理解する。 ○「いち」「に」…「じゅう」の数詞を知り、確実に唱えて数えることができる。 ○1～10の数字の読み方、書き方を理解する。 ○1～10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を関連付けて理解する。	7	・絵を見て、いろいろな観点から集合をつくる。 ※ブロックを用いて同じ個数の集合を見つけ、1対1対応させて同じ個数であることを確認する。 ◆具体物をまとめて数え、それを整理して表す活動 ・同じ個数の集合を見つけ、「いち」「に」…「じゅう」の数詞を対応させる。 ・各要素の数や数図に「1」…「10」の数字を対応させる。 ・1～10の数字の書き方を知り、書く練習をする。 ・絵を見て、数量を数えて数字を書く。また、色や位置などの観点で数を構成的にとらえる。 ・1～10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる活動をゲーム的に行う。
	○1～10の数について、大小を比較することができる。 ○1～10の数について、その系列を理解する。	1 (2)	・数図や数カードによる数の大小比較をする。 ・1個～10個の、少ない順に並んだブロックを見て、それぞれのブロックの数を数字で書く。 ・数カードによる数の大小比較をもとに1～10までの数字を並べ、系列をとらえる。
	○1つもないことを0と表すことを理解する。	1	・輪投げの結果を見て、0という数について知る。
	(関) 観点や条件を明確に認識しながら意欲的に集合をつくったり、1対1対応のよさに気づき、数量の多少を比べたりしようとしている。 (考) 1対1対応を用いて、集合の要素の個数の比べ方や表し方を考えている。 (技) 10までの数について正しく数えることができ、数字を読んだり書いたりしている。 (知) 集合の要素の個数について1対1対応による比較の仕方を理解している。		
5月	単元名	2 なんばんめ (2時間)	
	目標	ものの順序を、数を用いて正しく表し、順序数の概念について理解する。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○数は順序や位置を表すこともあることを理解する。	1	・徒競走の順位や綱引き前後にかかわる順序を数で言い表す。

5 月	○前後にかかわる順序の表し方を理解する。		・集合数と順序数の違いを考える。 ※順序や位置など、生活の中でも数を使って表していることを意識させるようにする。	
	○上下、左右にかかわる順序の表し方を理解する。	1	・黒板に貼った果物の絵や机の上のものを見て、上下左右にかかわる位置を数で言い表す。	
	(関) 順序数を用いて表せることよさに気付き、進んで用いようとしている。 (考) 数を順番や順序も表すものとしてとらえている。 (技) 数を用いて順序や位置を表すことができる。 (知) 数を使えば順序や位置を正確に表せることを理解している。			
	単元名	3 いくつと いくつ (7時間)		
	目標 10までの数の構成を理解し、数を多面的にとらえることができる。			
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○具体物の操作によって5の構成を理解する。	1	・おはじきをふる活動を通して、5の構成を考える。 ・5個のおはじきをいろいろな形に並べて、5の構成を多様にとらえる。	
	○6の構成を理解する。 ○7の構成を理解する。 ○8の構成を理解する。 ○9の構成を理解する。	4	・おはじき、さいころ、数字カードを用いたゲーム的な活動を通して6、7、8、9の構成を考える。 ※具体物や算数ブロックなどの半具体物を用いて、それぞれの数の構成を理解できるようにする。 ・6から9までのそれぞれの数の構成をまとめる。	
	○10の構成の理解を確実にする。	2	・数字カードを用いて、10の構成や補数を考える。 ・10の構成をまとめる。 ・10の構成や補数について習熟する。 ・10の構成や補数について習熟する。	
	(関) 1つの数を他の数を用いているいろいろな表し方でとらえようとしている。 (考) 10までの数について、1つの数を他の2つの数の和や差としてとらえている。 (技) 10までの数の合成、分解ができています。 (知) 10までの数の構成を理解している。			
6 月	単元名	4 あわせて いくつ ふえると いくつ (6時間(7時間))		
	目標 加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を理解し、それを用いることができる。			
		目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
		○2つの数量の合併の場合について、加法の意味や式の表し方を理解する。	1	・2つの集合の合併の事象をとらえ、ブロック操作で合併の意味をとらえ、加法の式に表す。 ◆計算の意味を具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表わす活動 ・用語「たしざん」を知る。
		○数量の増加の場合について、加法の意味や式の表し方を理解する。	1	・2つの集合の増加の事象をとらえ、ブロック操作で増加の意味をとらえ、加法の式に表す。 ・増加の事象を加法の式に表す。
		○和が10以内の加法計算ができる。 ○加法の計算能力を高める。	2	・和が10以内の加法計算をする。 ※算数ブロックなどの操作をさせながら、答えを確かめられるようにしていく。 ・合併や増加の事象をとらえ、立式、解決をする。 ・計算カードを使って、加法計算の練習をする。
		○0を含む加法の計算の意味を理解する。	1	・2回の玉入れの合計を求める事象を、0を含む加法の式に表し、その意味を考える。
	○問題作りによる式の読みを通して、加法の意味理解を深める。	1 (2)	・絵を見て、いろいろな観点で合併や増加の場面をとらえ、 $5+3$ の式に合う問題を作る。 ・ $2+3$ になる場面を式と絵で表し、発表する。	

	<p>(関) 日常の事象から合併や増加の場面をとらえ、式に表すよさに気付き、加法を適用しようとしている。</p> <p>(考) 合併や増加などの場面を加法の関係として統合的にとらえている。</p> <p>(技) 和が10以内の加法計算ができる。</p> <p>(知) 加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を理解している。</p>		
6 月 中 旬	単元名	5 のこりは いくつ ちがいは いくつ (7時間(8時間))	
	目標	減法の意味と被減数が10以内の減法計算の仕方を理解しそれを用いることができる。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○求残の場合について、減法の意味を理解する。 ○求残の場合について、式の表し方を理解する。	1	・減少の事象をとらえ、ブロック操作で減少の意味をとらえ、減法の式に表す。 ◆計算の意味を具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表わす活動 ・求残の事象を加法の式に表す。
	○被減数が10以内の減法計算ができる。 ○求補の場合について、減法の意味を理解する。 ○減法の計算能力を高める。	2	・被減数が10以内の減法計算をする。 ※算数ブロックなどの操作をさせながら、答えを確かめられるようにしていく。 ・場面をとらえ、求補の意味を考える。 ・求補の事象を減法の式に表す。 ・計算カードを使って、被減数が10以内の減法計算の練習をする。
	○0を含む減法の計算の意味を理解する。	1	・残ったイチゴの数を求める事象を0を含む減法の式に表す。
	○求差の場合について、減法の意味を理解する。 ○文章題解決を通して、求差の意味理解を深める。	2	・子どもが並んでいる絵を見て、1対1対応によって2量の多少をおさえ、差の求め方を考える。 ・ブロック操作で求差の意味をとらえる。 ・求差の事象を減法の式に表す。 ・問題文を読んで、「○と△の数の違いはいくつ」、「どちらが何個多い」の意味を理解し、減法の式に表し、正しく答えを書く。
○問題作りによる式の読みを通して、減法の意味理解を深める。	1 (2)	・絵を見て、いろいろな観点で求残、求補、求差の場面をとらえ、7-2の式に合う問題を作る。 ・6-4になる場面を式と絵で表し、発表する。	
<p>(関) 日常の事象から求残や求補、求差の場面をとらえ、式に表すよさに気付き、減法を適用しようとしている。</p> <p>(考) 求残や求補、求差の場面を減法の関係として統合的にとらえている。</p> <p>(技) 被減数が10以内の減法計算ができる。</p> <p>(知) 減法の意味と被減数が10以内の減法計算の仕方を理解している。</p>			
7 月	単元名	6 10より おおきい かず (9時間)	
	目標	<p>・20までの数について数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを知り、数の概念について理解する。</p> <p>・20までの数の構成を和や差でとらえることができる。</p>	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
○20までの数の数え方、唱え方を理解する。	1	・ひまわりとはち、ちょうの数を数える。 ※10を超えるものの数は、「10といくつ」と考えればよいことを意識させて数えさせる。 ◆具体物をまとめて数え、それを整理して表す活動 ・20までの数を数え、数詞を唱える。	
○20までの数の読み方、書き方を理解する。	1	・あめやたまごの数を数え、10と10で20と書く。	

○20 までの数の数え方の理解を深める。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・20 までの数を読んだり書いたりする。 ・クレヨンやカスタネット、ヒヨコなどの数を10のまとまりをつかって数える。 ・2個で1パックになっているヨーグルトの写真や、1袋に5個入っているティッシュの写真を見て、数え方の工夫を考える。 ・バス停に人が並んでいる絵を見て、20 までの数の順序数について考える。
○20 までの数の構成について理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・20 までの数の分解について、算数ブロックによる操作活動などを通して考える。
○数が数直線上に表せることを理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・図を見て、カエルやネコ、ウサギの跳んだ距離と位置を調べ、数直線上の動物の位置を数で表わす。
○20 までの数について、数の大小や系列を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を手がかりにして、20 までの数の大小や系列を考える。
○40 までの数の数え方、読み方、書き方を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、卵や数え棒、色紙、ペンの数を数える。 ・卵は20と3で「にじゅうさん」と読み、「23」と書くことを確認する。 ・20と6で26と書き表す。 ・色紙は10が3こで「さんじゅう」と読み、「30」と書くことを確認する。 ・30と4で34と書き表す。 ・30 までの数について、数え棒の数を数えたり、カレンダーの数を読んだりする。
○20 までの数の構成を和や差でとらえることができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・数構成（10 といくつ）に基づいて、$10+5$ などの式に表わし、計算の仕方を考える。 ・数構成（10 といくつ）に基づいて、$15-5$ などの式に表し、計算の仕方を考える。 ◆計算の意味や仕方を具体物や言葉、数を用いて表す活動
○20 までの数の構成を和や差でとらえ、 $12+3$ 、 $15-3$ などの計算ができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・20 までの数について、その数の構成に着目して、計算の仕方を考える。
<p>(関)10 をひとまとまりにして数えるよさに気付き、いろいろな個数を数えようとしている。</p> <p>(考)10 といくつという数の構成に着目して、20 までの数を10 といくつととらえている。</p> <p>(技)20 までの数について正しく数えることができ、数を読んだり書いたりしている。</p> <p>(知)20 までの数について数え方や数の読み方、書き方、数の構成、大小、系列などを理解している。</p>		

【授業における評価計画例】第1次 第4時

○ 授業の概略

- *10 より大きい数を並べたブロックからかくされた数をあてる活動をして、数の構成について考える。
- *友達と交代で問題を出し合う。
- *20 までの構成について練習問題をやる。

○ 評価の観点及び評価規準

〈数学的な考え方〉数の構成に基づいて、20 までの数を「10 といくつ」に合成・分解できる。

● 各学校の評価の規準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

かくされたブロックの数を「10 といくつ」という構成に基づいて考えている。「16 は 10 と 6 だからかくれている数は 6」という表し方をしている。

B おおむね満足できると判断されるもの

かくされた数がわかり、ブロックの操作を通して確かめている。

● 評価の方法と視点

- *全体指導における発言やブロック操作を観察する。
「10 といくつ」という合成・分解の意味を理解できているか。
- *類似の問題の解決の様子を観察する。
数の処理で「10 といくつ」の合成・分解ができているか。

7 月 中 旬	単元名	7 なんじ なんじはん（1時間）		
	目標	時刻に関心をもち、何時、何時半の時刻を読む活動を通して、時刻についての理解の基礎となる経験を豊かにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○時計を見て何時、何時半を正しく読み取ることができる。	1	・絵を見て、1日の生活と関連付けながら何時、何時半の時刻を読む。 ・模型時計を使って、表された時刻を読んだり、指示された時刻を表したりする。 ※短針の読み取りに重点を置くようにする。	
(関) 時刻を読み取り、進んで生活の中に生かそうとしている。 (考) 短針と長針の関係をとらえ、針の位置で時刻が決まることが説明できている。 (技) 何時、何時半の時刻を読んだり、時計で表したりすることができる。 (知) 何時、何時半の時刻の読み方を理解している。				
9 月	単元名	8 どちらがながい（5時間）		
	目標	比較などを通して長さの概念や測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○身の回りのものの長さに関心をもち、直接比較の方法で比べることができる。	2	・2つの棒状の具体物（鉛筆）やひも状の具体物（リボン）、3つの具体物（ひも、モール、ストロー）の長さの比べ方を考える。 ◆身の回りにあるものの長さを直接比べる活動 ・長さの直接比較の仕方（一方の端を揃え、曲がっているものはまっすぐに伸ばす）で長さを比べる。	
○身の回りのものの長さに関心をもち、間接比較の方法で比べることができる。	1	・直接比べることのできない長さ（ハガキやCDケースの縦、横の長さ）の比べ方を考え、媒介物などを用いることによって比べる。 ◆身の回りにあるものの長さを他のものを用いて比べる活動		
○身の回りのものの長さを、任意単位を用いることによって、数で長さを表せることを理解する。	2	・身の回りのものの長さを、指のあたや色鉛筆などを単位として「いくつ分」で表す。 ・身の回りのものの長さを、ますを単位として「いくつ分」で表す。		

- (関) 身近なものの長さに関心を持ち、いろいろな方法を工夫して比べようとしている。
- (考) 単位の大きさを決めて、そのいくつ分として長さをとらえている。
- (技) 直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって長さを比べている。
- (知) 長さについての基礎的な概念や比較の仕方などを理解している。

【授業における評価計画例】 第1次 第1時

○ 授業の概略

長さくらべをしましょう。

- * 2本の鉛筆の長さの比べ方を考えることで端をそろえて比べることに気付く。
- * 2本のリボンの長さの比べ方を考えることで まっすぐ伸ばして比べることに気付く。
- * いろいろなものの長さを直接比較で比べる。

○ 評価の観点及び評価規準

〈関心・意欲・態度〉 身の回りのものの長さに関心を持ち、長さの比較に取り組もうとしている。

● 各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

端をそろえたり、まっすぐ伸ばしたりする直接比較の方法について生活経験をもとに考えようとしている。

B おおむね満足できると判断されるもの

身の回りのものの長さを正しく比べようとしている。

● 評価の方法と視点

- * 長さくらべの活動の様子を観察する。
進んで比べ方を考えているか。
正しく比較できているか。

9 月 中 旬	単元名	9 3つの かずの けいさん (4時間)	
	目標	3つの数の加減や加減混合の計算の仕方を理解し、それをを用いることができる。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○ 3つの数の加法の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの数でも1つの式に表せることを知る。 ・ 2つの数の加法計算の仕方をもとに考え解決する。 ※算数ブロックの操作を用いて計算の仕方を説明できるようにしていく。 ◆計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動 ・ 3つの数も1つの減法の式に表せることを知る。 ・ 2つの数の減法計算の仕方をもとに考え、解決する。 ・ 3つの数も1つの式に表せることを知る。 ・ 3つの加減混合の計算の仕方を考え、計算をする。
	○ 3つの数の減法の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。		
	○ 3つの数の加減混合の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。		
	○ 操作からの式の読み取りや問題作りを通して3つの数の加減計算の意味理解を深める。		<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックの動きを見て3つの数の加減計算の式と答えを表す。 ・ $4 + 5 - 2$の式の問題を作り、操作と言葉で表す。
	(関) 日常の事象から3つの数の加減や加減混合の計算の場面を読み取り、式に表して考えようとしている。		
	(考) 2つの数の加法や減法の考え方をを用いて、3つの数の計算の仕方について考えている。		
	(技) 3口の加減計算の場面を1つの式に表し、その計算ができている。		
	(知) 3口の加減計算の場面を1つの式に表せること、及びその計算の仕方を理解している。		
9 月	単元名	10 どちらが おおい (4時間)	
	目標	比較などを通してかさの概念や測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動

	○身の回りのもののかさに興味をもち、直接比較、間接比較の方法で比べることができる。 ○身の回りのもののかさを、任意単位を用いることによって、数で表せることを理解する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの容器に入る水のかさを比較しようとしている写真を見て、かさの比較に関心をもつ。 ・形の異なる2つの容器に入る水のかさの大きさを比べる方法を考える。 ◆身の回りにあるものの体積を直接比べたり、他のものを用いて比べたりする活動 ・かさについて直接比較、間接比較の方法を知り、実際に比較してみる。 ・容器に入っている水のかさを、コップを単位として「いくつ分」で表す。 ※長さの学習で「いくつ分」で表したことを想起させ、関連付けながら比べ方を考えさせていく。 ・かさについて任意単位による比較の方法を知り、実際に比較してみる。
	<p>(関) 身近なもののかさに興味をもち、いろいろな方法を工夫して比べようとしている。</p> <p>(考) かさの数値化の必要性に気づき、単位の大きさを決めてそのいくつ分でとらえている。</p> <p>(技) 直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、かさを比べている。</p> <p>(知) かさについての保存性や比較の仕方、任意単位による測定の方法を理解している。</p>		
10月	単元名 11 たしざん (13時間)		
	目標 1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を理解しそれを用いることができる。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法について理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・$9+4$の計算の仕方を考える。 ・加数分解による計算方法をまとめる。 ・$9+3$の計算に取り組み、計算の仕方をまとめる。 ◆計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動
	○1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。		<ul style="list-style-type: none"> ・被加数が9、8、7の場合の計算の仕方を考える。 ・加数分解による計算方法についてまとめる。 ・被加数が7の場合の計算の仕方を考える。 ・計算練習に取り組む。
	○1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法についても理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・立式し、$3+9$の計算の仕方を考える。 ・被加数を分解して計算する方法についてまとめる。 ※数値によって加数分解や被加数分解の計算の仕方のよさを感じられるようにしていく。
	○加法の計算能力を高める。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを用いた活動を通して、繰り上がりのある1位数同士の加法計算の練習をする。 ※家庭学習など継続して習熟を図るようにする。
	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげ」に取り組む。
	<p>(関) 数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を進んで考えようとしている。</p> <p>(考) 20までの数の構成や10の補数に着目して計算の仕方を考えている。</p> <p>(技) 1位数同士の繰り上がりのある加法計算ができている。</p> <p>(知) 1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を理解している。</p>		

【授業における評価計画例】 第1次 第1時

○ 授業の概略

9 + 4 の計算の仕方を考えよう。

*問題文を読み、立式し、答えが10より大きくなるたしざんであることに気付く。

*答えの求め方を算数ブロックを使って考え、話し合う。

○ 評価の観点及び評価規準

〈数学的な考え方〉 繰り上がりのあるたし算の仕方について、10のまとまりに着目して考えている。

● 各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

どのように10のまとまりを作ったか、算数ブロックを操作しながら説明することができる。

B おおむね満足できると判断されるもの

算数ブロックを操作して、繰り上がりのあるたし算の答えを求めることができる。

● 評価の方法と視点

*自力解決における算数ブロックの操作を観察する。

答えをどのようにしてもとめようとしているか。

*全体指導における発言を観察する。

10 月 下 旬	単元名	1 2 かたちあそび (5時間)	
	目標 身の回りのものの形の観察や形の構成などの操作を通して、立体図形に親しみ、それらの理解の基礎となる経験を豊かにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○立体図形に親しむ。 ○箱などの身の回りの具体物の概形をとらえ、立体図形の特徴や機能を知る。	2	・作りたい乗り物や建物などを決め、それらの概形や特徴を話し合う。 ・空き箱や空き缶を積んだり並べたりして作る。 ・いろいろな形のを積んだり転がしたりして、図形の特徴や機能を調べる。 ※高い建物を作る、転がる乗り物を作るなど、目的をもたせてかたちあそびをさせることで、形の特徴を意識させるようにする。
	○箱などの身の回りの具体物から形を抽象し、立体図形の特徴をまとめる。	1	・前時の活動を通して分かった形の特徴や機能を発表し合う。
○立体図形を構成する一部分に平面図形があることを知る。	2	・教科書の写真を見て、どの箱や積み木のどの面を写しとったのかを話し合う。 ・箱や積み木の面を写し取って、その形を生かした絵をかき、発表し合う。	
(関) 身の回りのものの形を認めたり形の特徴や機能をとらえたりしようとしている。 (考) 身の回りのものの形について、形以外の属性を捨象して、形のみに着目している。 (技) 身の回りのものの形について、その概形や特徴、機能をとらえ、分類したりすることができる。 (知) 基本的な立体図形の特徴や機能を理解している。			

【授業における評価計画例】 第1次 第1・2時

○ 授業の概略

集めてきた空き箱や空き缶をつかって、いろいろなものをつくりましょう。

*集めた形を見てどんなものを作れるか見通しをもつ。

*自由に形を選び、建物や乗り物など作って楽しむ。

*どんな形をどのように使ったか話し合う。

○ 評価の観点及び評価規準

〈技能〉身の回りのものの形について、その概形や特徴、機能をとらえることができる。

● 各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

作りたいものの形の特徴を考え、それに合った空き箱や空き缶を選んで作っている。

B おおむね満足できると判断されるもの

自分の作りたいものを思い浮かべながら、空き箱や空き缶を選んで作っている。

● 評価の方法と視点

*かたちづくりをしている行動を観察する。

高いタワーを作ったり動く車を作ったりする工夫を考えて、空き箱や空き缶を形の特徴をとらえて選んでいるか。

*かたちづくりの工夫を話し合う場面で発言を観察する。

11 月 上 旬 ～ 11 月 下 旬	単元名	13 ひきざん (13時間)		
	目標	11～18から1位数を引く繰り下がりのある計算の仕方を理解し用いることができる。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法(減加法)について理解する。	5	・場面を読み取り、立式をする。 ・13-9の計算の仕方を考える。 ・減加法による計算方法をまとめる。 ・12-9の計算に取り組み、計算の仕方をまとめる。 ◆計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動 ・減数が8、7の場合の計算の仕方を考える。 ・減加法による計算方法についてまとめる。 ・減数が9、8、7の場合の計算練習に取り組む。 ※算数ブロックの操作を十分に行いながら計算の習熟を図るようにする。	
	○11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。			
	○11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、減数を分解して計算する方法(減々法)について理解する。	2	・12-3の計算の仕方を考える。 ・減々法による計算方法についても考える。 ・計算練習に取り組む。 ・文章題を解決する。	
	○減法の計算能力を高める。	5	・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の練習をする。	
	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ○減法について理解を深める。	1	・「しあげ」に取り組む。 ・「おいこしげえむ」に取り組む。	
(関) 数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、11～18から1位数を引いて繰り下がりのある計算の仕方を進んで考えようとしている。 (考) 18までの数の構成や10の補数に着目して計算の仕方を考えている。 (技) 11～18から1位数をひいて繰り下がりのある減法計算ができています。 (知) 11～18から1位数をひいて繰り下がりのある減法計算の仕方を理解している。				
12 月	単元名	14 どちらが ひろい (1時間)		
	目標	広さの概念や測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	

	○身の回りのものの広さに興味をもち、直接比較やますの数で比べることができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙や学校の掲示物、新聞など、身の回りのものの広さを比較しようとしているイラストを見て、広さの比較に関心をもつ。 ・広さの直接比較の方法を知り実際に比較する。 ◆身の回りにあるものの広さを直接比べる活動 ・陣取り遊びをして、広さをますの数で比べる。 ※陣地を比べるときに形を動かしても広さは変わらないことにも気付かせるようにする。 																																	
	<p>(関) 広さに興味をもち、いろいろな方法を工夫して比べようとしている。</p> <p>(考) 広さをますのいくつ分としてとらえている。</p> <p>(技) 直接比較やますの数によって、広さを比べることができている。</p> <p>(知) 広さについての基礎的な概念や比較の仕方を理解している。</p>																																			
1月	<table border="1"> <tr> <th>単元名</th> <td>15 おおきい かず (16時間)</td> </tr> <tr> <th>目標</th> <td>100までの数について、その表し方の原理を理解し、数の概念について理解を深める。 簡単な3位数について、具体物を数えたり、数を唱えたりすることができる。 2位数の数の構成をもとにした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。</td> </tr> <tr> <th>目標</th> <td>時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動</td> </tr> <tr> <td>○2位数の数え方、唱え方を理解する。</td> <td>5</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを行い、自分の取った数え棒の数の数え方を考え、数えた数の表し方について話し合う。 ◆具体物をまとめて数え、それを整理して表す活動 ・10のまとまりとばらに分けて表せばよいことをまとめ、位取り記数法を知る。 ・数を工夫して数える。 ※いろいろなものを数える活動を通して、10のまとまりをつくるよさを感じさせ、習熟を図る。 ・位取り板やブロックで数を表すなどの活動をする。 </td> </tr> <tr> <td>○2位数の位取りの原理と記数法について理解する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○2位数の数え方の理解を確実にする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○2位数の構成を理解する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○100の唱え方、読み方、書き方を理解する。</td> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンギンの数を数え、99の次は100と書き表すことを知る。 </td> </tr> <tr> <td>○数表から数の並び方の規則性に気付き、数に興味をもつ。</td> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・0～100の数表を見て、気付いたことを発表する。 ・数表の数の並び方の規則性についてまとめる。 ・数表の並び方から数をあてる活動に取り組む。 ・数直線を見て、100までの数と対応付ける。 ・数直線を用いて系列や大小を確かめる。 </td> </tr> <tr> <td>○100までの数の系列や大小について理解する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○具体物を数えることを通して、120程度までの数の唱え方や系列について理解する。</td> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・棒の絵を見て、100と3で「ひゃくさん」と読み、「103」と書くことを知る。 ・120程度までの数の唱え方、並び方を知る。 ※「100といくつ」という見方を十分に行う。 </td> </tr> <tr> <td>○2位数の数の構成をもとにした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。</td> <td>3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・数構成(10がいくつ)に基づいて、$50+20$や$60-20$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ・数構成(何十といくつ)に基づいて、$30+5$、$35-5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ・2位数についてその数の構成に着目して、$25+3$や$28-3$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ※10のまとまりがいくつかが考えさせることで、これらの計算の仕方が数の構成に基づいていることに気付かせる。 </td> </tr> </table>			単元名	15 おおきい かず (16時間)	目標	100までの数について、その表し方の原理を理解し、数の概念について理解を深める。 簡単な3位数について、具体物を数えたり、数を唱えたりすることができる。 2位数の数の構成をもとにした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	目標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	○2位数の数え方、唱え方を理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを行い、自分の取った数え棒の数の数え方を考え、数えた数の表し方について話し合う。 ◆具体物をまとめて数え、それを整理して表す活動 ・10のまとまりとばらに分けて表せばよいことをまとめ、位取り記数法を知る。 ・数を工夫して数える。 ※いろいろなものを数える活動を通して、10のまとまりをつくるよさを感じさせ、習熟を図る。 ・位取り板やブロックで数を表すなどの活動をする。 	○2位数の位取りの原理と記数法について理解する。			○2位数の数え方の理解を確実にする。			○2位数の構成を理解する。			○100の唱え方、読み方、書き方を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペンギンの数を数え、99の次は100と書き表すことを知る。 	○数表から数の並び方の規則性に気付き、数に興味をもつ。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・0～100の数表を見て、気付いたことを発表する。 ・数表の数の並び方の規則性についてまとめる。 ・数表の並び方から数をあてる活動に取り組む。 ・数直線を見て、100までの数と対応付ける。 ・数直線を用いて系列や大小を確かめる。 	○100までの数の系列や大小について理解する。			○具体物を数えることを通して、120程度までの数の唱え方や系列について理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・棒の絵を見て、100と3で「ひゃくさん」と読み、「103」と書くことを知る。 ・120程度までの数の唱え方、並び方を知る。 ※「100といくつ」という見方を十分に行う。 	○2位数の数の構成をもとにした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・数構成(10がいくつ)に基づいて、$50+20$や$60-20$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ・数構成(何十といくつ)に基づいて、$30+5$、$35-5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ・2位数についてその数の構成に着目して、$25+3$や$28-3$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ※10のまとまりがいくつかが考えさせることで、これらの計算の仕方が数の構成に基づいていることに気付かせる。
単元名	15 おおきい かず (16時間)																																			
目標	100までの数について、その表し方の原理を理解し、数の概念について理解を深める。 簡単な3位数について、具体物を数えたり、数を唱えたりすることができる。 2位数の数の構成をもとにした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。																																			
目標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動																																			
○2位数の数え方、唱え方を理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを行い、自分の取った数え棒の数の数え方を考え、数えた数の表し方について話し合う。 ◆具体物をまとめて数え、それを整理して表す活動 ・10のまとまりとばらに分けて表せばよいことをまとめ、位取り記数法を知る。 ・数を工夫して数える。 ※いろいろなものを数える活動を通して、10のまとまりをつくるよさを感じさせ、習熟を図る。 ・位取り板やブロックで数を表すなどの活動をする。 																																		
○2位数の位取りの原理と記数法について理解する。																																				
○2位数の数え方の理解を確実にする。																																				
○2位数の構成を理解する。																																				
○100の唱え方、読み方、書き方を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペンギンの数を数え、99の次は100と書き表すことを知る。 																																		
○数表から数の並び方の規則性に気付き、数に興味をもつ。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・0～100の数表を見て、気付いたことを発表する。 ・数表の数の並び方の規則性についてまとめる。 ・数表の並び方から数をあてる活動に取り組む。 ・数直線を見て、100までの数と対応付ける。 ・数直線を用いて系列や大小を確かめる。 																																		
○100までの数の系列や大小について理解する。																																				
○具体物を数えることを通して、120程度までの数の唱え方や系列について理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・棒の絵を見て、100と3で「ひゃくさん」と読み、「103」と書くことを知る。 ・120程度までの数の唱え方、並び方を知る。 ※「100といくつ」という見方を十分に行う。 																																		
○2位数の数の構成をもとにした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・数構成(10がいくつ)に基づいて、$50+20$や$60-20$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ・数構成(何十といくつ)に基づいて、$30+5$、$35-5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ・2位数についてその数の構成に着目して、$25+3$や$28-3$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ※10のまとまりがいくつかが考えさせることで、これらの計算の仕方が数の構成に基づいていることに気付かせる。 																																		

	○100までの数について理解を深める。 ○身の回りのものの数に興味を持ち、2位数の理解を深める。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで「かずしらべ」に取り組む。 ・学校内にあるものの中から、120程度までのものを探し、その数を数え学級全体で発表し合う。 ・「すごろくゲーム」に取り組む。
	<p>(関) 10ずつまとめて数えることよさや十進位取り記数法のよさに気付き、進んで2位数を数えたり用いたりしようとしている。</p> <p>(考) 20 までの数の表し方のしくみをもとにして、100 までの数の数え方や読み方、書き方を考えている。</p> <p>(技) 100 までの数や簡単な3 位数を正しく数えることができ、読んだり書いたりすることができている。</p> <p>(知) 100 までの数や簡単な3 位数について、数の読み方や書き方、数の構成、大小、順序、系列などを理解している。</p>		
2	単元名 16 なんじ なんぷん (2時間)		
月	目標 時計を見て、時刻を読むことができる。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○時計を見て、時刻を正しく読み取ることができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て1日の生活と関連付けながら時刻を読む。 ・模型時計を使って、表された時刻を読んだり、指示された時刻を表したりする。
	<p>(関) 時刻の読みを、日常生活に進んで取り入れようとしている。</p> <p>(考) 時計の数字の目盛りは5とびになることに気付き時刻を読む方法を考えている。</p> <p>(技) 時刻を正確に読んだり、時刻を時計に表したりしている。</p> <p>(知) 時刻の読み方を理解している。</p>		
2	単元名 17 ずをつかって かんがえよう (6時間)		
月	目標 順序数や異種の数量、求大や求小についても加減計算が適用できることを理解し、それを用いることができる。		
中	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
旬	○順序数について、加法や減法の意味を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・図をもとに、順序数の場合も加法が適用できる方法について考える。 ・問題の場面を読み取り、図に数値を書き込み、どんな式を書けばよいか考え、答えを求める。
	○異種の数量について、加法や減法の意味を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・図をもとに、異種の数量の場合も加法が適用できる方法について考える。 ・問題の場面を読み取り、図をもとに、どんな式を書けばよいか考え、答えを求める。
	○求大の場合について、加法の意味を理解する。 ○求小の場合について、減法の意味を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・求大・求小の場面をとらえる。 ・図をもとに、どんな式を書けばよいか考え、答えを求める。 ・適用問題に取り組み、解決する。
	○図をもとにした問題解決について、理解を深める。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をとらえ、p.144の図の続きをかく。 ・図をもとにして考え、問題文の数値に1をたした数が答えになることを確認する。 ・式から他者の考えを読み取り、話し合う。

- (関) 順序数や異種の数量、求大や求小について加減計算の成り立つ場面を日常の事象から見出し、加減の適用場面を拡張しようとしている。
- (考) 順序数や異種の数量の加減計算の場面について、集合数や同種の数量に置き換えて考えている。求大や求小の場面について図解などを用いて数量の関係をとらえている。
- (技) 順序数や異種の数量の用いられた加減計算の場面を式に表し、その解決ができています。求大や求小の場面を、加減の式に表し計算することができています。
- (知) 順序数や異種の数量の用いられた加減計算の場面を式に表して解決してよいことを理解している。求大や求小の場面を加減の式に表せることを理解している。

【授業における評価計画例】 第1次 第1時

○ 授業の概略

ひろしさんは、まえから6ばんめにいます。ひろしさんのうしろに4にんいます。みんなでなんにんいますか。

*おはじきや算数ブロックを並べて問題場面を理解する。

*並べたおはじきや図を見て、解決方法を考える。

*解決方法を話し合い、加法で表すことができることを理解する。

○ 評価の観点及び評価規準

〈数学的な考え方〉順序数の加減計算の場合も集合数に置き換えて考えている。

● 各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

問題場面をあらわした図を用いて、加法の式になることを説明できている。

B おおむね満足できると判断されるもの

問題場面を図に表わし、立式できている。

● 評価の方法と視点

* 自力解決時のブロック操作やノートの記述
問題場面を把握できているか。

2 月 下 旬	単元名	18 かたちづくり (5時間)		
	目標	身の回りにあるものの形を観察したり構成したりするなどの活動を通して、平面図形について理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○身の回りにあるものの形の特徴をとらえ、色板を並べていろいろな図形を作る活動を通して、図形への関心を高める。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・直角二等辺三角形の色板を使って、いろいろな形を構成する。 ・4枚の色板で基本図形を構成する。 ・1枚だけ色板を動かして形を変えていく。 	
○数え棒を並べたり格子点を直線で結んだりして、いろいろな図形を作る活動を通して、形を線でとらえることができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に色板で作った形を基に、数え棒を並べて、いろいろな形を作る。 ・格子点を直線で結んで、いろいろな形をかく。 		
○外的な活動を通して学習内容の理解を深め、形についての興味・関心を高める。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・〔やってみよう〕決められた枚数の色板で、いろいろな形を作る。 		
<p>(関) 身の回りにあるものの形に関心をもち、色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ろうとする。</p> <p>(考) 色板などをずらしたり回したり裏返したりすることを通して、いろいろな形を構成・分解することを考えることができる。</p> <p>(技) 色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ることができる。</p> <p>(知) 身の回りにあるものの形の特徴をとらえることを通して、中空のものも中実のものと同じように見られることを理解する。</p>				